

# 私と能山踊り

鎌田 <sup>てるふみ</sup> 輝文さん(久良)



愛媛  
CATV  
動画



▲歌が書かれた扇を手にとり取材を受ける鎌田さん



◀最初に浜で踊り、その後古木庵の境内に場所を移して踊る

## “踊りと歌に込める地域への想い”

毎年8月1日から14日の間に踊られる「久良の能山踊り」。この踊りを伝えていくため、踊りの会で世話役を務めているのが鎌田<sup>てるふみ</sup>輝文さんです。

鎌田さんが能山踊りに関わり始めたのは、舞台の1つとなる古木庵が建て替えられた平成17年頃からだと言います。それまでも踊りの存在自体は知っていましたが、実際に参加を始めたのは、少子高齢化で踊り手が減っていく中で当時の世話役から声をかけられたのがきっかけだったと言います。

踊る期間が厳密に決められている能山踊りは、例え練習のためであっても期間外に踊ることはありません。鎌田さんをはじめ、踊りに参加している7人も1年振りに始めるときは思い出しながら踊っているそうです。一人一人の記憶と経験が、久良の伝統と歴史を支え続けています。

鎌田さんは、「私は初盆を迎える方や地域のご先祖様のために踊っています。久良に生まれた人や家族のお墓がこの土地にある人たちにも、そういう気持ちが伝わればと願っています」と優しい願いを込めて、これからも地域の大切な伝統芸能を伝えていきます。

### 【県指定無形民俗文化財】

### 久良<sup>のうらん</sup>の能山踊り

久良真浦の古木庵に祀られる顕徳院殿能山祐賢大居士(御庄領主勤修寺左馬頭基賢)の霊を慰めるため始まったと伝えられます。

昔は鉦も使われていましたが、現在使われる楽器は太鼓のみ。太鼓打ちを中心に、着流し姿の男性たちが扇を持ち歌いながら、緩やかな動作で踊ります。

歌は1番から8番までが、現在に伝えられています。

### 編集後記

愛南マラニック特集に始まり、夏祭りや中学・高校生の全国大会など、夏の思い出を振り返る内容となった10月号。猛暑に負けない皆さんの笑顔と活躍をご覧ください。

さて、この後記を書いているのは、残暑のまだ厳しい9月中旬。この広報が発行される頃にはもう少し涼を感じられるように願いつつ、今後の取材では爽やかな秋の愛南をお届けしていきたいと思います。

今年も盛大に開催された愛南マラニック。昨年の経験を踏まえ、今年は原付でコース中の撮影に挑戦してみました。自動車とは違って海の匂いや山の匂いを感じながら、時には焦げたようなエンジンの匂いに不安を感じながら、ランナーと至近距離で撮影を行うことが出来ました。

途中、急な雨に降られて身動きが取れず、雨宿りしながら食べたスパイシーカレーパン、沁みました。M

**愛南町の世帯数と人口**  
令和5年9月1日現在

世帯数	9,953世帯	(-3世帯)
人口	19,166人	(-40人)
男	9,076人	(-22人)
女	10,090人	(-18人)
愛南町の高齢化率	46.6%	
※ ( ) 内は前月比		
10年前 同月の人口	24,156人	

### 編集・発行

愛南町役場 総務課 〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地 電話：(0895)72-1211 FAX：(0895)72-1214

<https://www.town.ainan.ehime.jp/>